

安曇野日和



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

コロナ禍になる前の院長室だよりでは、よく気候の話題を取り上げていました。まだ病院の空調が弱く、酷暑になると熱中症予防のために多くの患者さんに点滴をしていました。今となればよく乗り越えられたなという思いではありますが、それでも当時の秋頃には身体状態が悪化して重篤となる患者さんは少なくありませんでした。

そういったことから、この夏は暑いのか、雨が多いのか、長いのか、短いのか、毎年戦々恐々として7～8月を迎えていた記憶があります。コロナ禍のために色々なことが寸断された数年間でしたが、ようやく平常の生活を取り戻したものの気候が平常ではなくなっていました。

特に、この2～3年は梅雨の時期がとても短い。今年も事実上6月末で梅雨明け同然の状態となっています。10年ほど前までは真夏といえは7月の下旬から8月のお盆頃までで、夏らしい日々はだいたい3週間くらいが普通だった気がします。今は7月の月上旬から9月下旬くらいまでは35度越えの猛暑日が続くことが当たり前になりました。

お陰で冷感素材の衣類や寝具、ファン付きのベスト、ハンディファン、高機能日傘など対策品も日進月歩です。いくつか試してみましたが今ではすっかり手放せなくなっています。

地球温暖化？エルニーニョ？ラニーニャ？理由は様々でしょうが、もうあの頃の夏は戻ってこないのでしょうか。

表紙写真

写真タイトル : 「 蕎麦の浜 」

撮影者：樋口 孝

当院の近くには、広大な蕎麦の畑があります。7月中旬には、1回目の収穫になります。写真の奥に当院の病棟の屋根が、ぼやけて映っています。収穫後、ほどなくして、2回目の種まきが始まります。

お花見



小倉病院の駐車場には桜の木が植えられています。昨年は4月の1週目には桜が開花しましたが、今年は気温がなかなか上がらず、2週目の終わりになってようやく咲き始めました。3週目の半ばには見頃となったため、桜を見るために、病棟ごと散歩へ出かけました。



散歩に出かける時間帯によっては、日差しが暖かかったり、風が強いときもありましたが、患者さんからは「満開できれいだった」「感動したわ」「こんなに桜があるなんて知らなかった」「外の空気は気持ちがいい」などの感想が聞かれました。

散歩の途中、桜の木の近くで写真撮影が行われ、カメラを向けられると凛々しい表情をされる患者さんやピースなどのポーズをとる患者さんなど、普段あまり見られない表情が見られました。

また、お花見にちなんだレクリエーションとして、甘酒を飲んだり『カラオケ大会』を行った病棟もありました。



美味しそうに甘酒を飲まれている患者さんや、楽しそうにカラオケを歌っている患者さんなど、皆さんそれぞれに楽しまれている様子でした。



病棟の窓から見える桜

衣料品販売

夏前となる5月21日（水）、病院の玄関ホールを使って衣料品販売が行われました。

前回と比べ品数が増え、選べるものが多くなっており、夏物衣類が豊富でした。患者さんは病棟から来店し、自分に合うものを探していました。



選んだ衣類を体に当てて鏡を見て確認したり、同行する職員に似合うかを確認したり、自分の予算内に収まるかを確認したりして、いつもとは違うお買い物を楽しんでいました。



文 化 祭

5月14日（水）に院内の体育館にて病院行事の文化祭が行われました。今年の文化祭は、作業療法の時間に個々の患者さんが作った『個人作品』と、毎月病棟ごとに作っている『カレンダー』や、季節ごとの『壁画』の展示、そして文化祭の当日に来場された患者さんに作っていただく『モザイクアート』の制作を行いました。



個人作品は、パッチワークやポーチなどの縫物や編み物、ネット手芸、木目込み細工、シールアートなど、たくさんの作品がテーブルに展示されていました。

また壁には壁画以外にも塗り絵や書道、スクラッチアートの作品などが所狭しと飾られていました。



来場された患者さんからは「みんなすごく良く出来ていた」「手作りはやっぱりいいね」「自分の作品があって嬉しかった」といった感想が聞かれました。

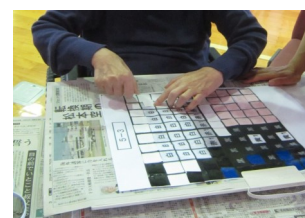


また「これどうやって作るの?」「機会があれば自分でも作ってみたい」という声も聞かれ、作品を見てご自身でも作ってみたいと思われた患者さんも多かったようでした。

モザイクアートでは、3×3cm位に切った折り紙を土台となる用紙のマス目に沿って貼り、大きな蝶の絵を作りました。来場された患者さんに、数枚ずつ紫、黒、黄色、白などの色紙を貼っていただきながら、110×140cmの大きな蝶の絵が完成しました。



作品を見た患者さんからは「きれいだね」「こうなるんだね」など完成したモザイクアートを見て驚かされている患者さんもいらっしゃいました。



新任医師紹介

令和7年4月より友納 弘樹（とものもう こうき）先生をお迎えいたしましたので、ご紹介いたします。

Q1 ご出身地と当地の自慢を教えてください。

広島県東広島市。山・川・海に恵まれた自然環境が魅力です。また地元西条地区は、約340年の歴史を持つ酒処として知られており、例年酒祭りで賑わいます。



東広島市観光マスコットのん太

Q2 長野県と小倉病院の印象を教えてください。

雄大なアルプスの景色と静かな環境が魅力です。小倉病院も療養に適した穏やかな環境で、職員の活気もありとても良い病院だと思います。



Q3 先生のご趣味はなんですか？

学生時代は競技スキー部に所属しており、毎年大会のため長野県を訪問していました。ウィンタースポーツはもちろんのこと、これから登山やキャンプ等もチャレンジしてみたいと思っています。

Q4 今までのお仕事と小倉病院での意気込みを教えてください。

主に大学病院で精神科専門研修を行い、精神薬理学をはじめ精神病理学、リエゾン精神医学等を学び、精神保健指定医および精神科専門医の資格を取得いたしました。その後は単科病院で措置入院や二次救急入院等の急性期精神科治療に従事していました。急性期ではスピード感のある対応を重視して取り組んでまいりましたが、小倉病院は慢性期の療養専門の病院であり、今後はより一人ひとりの患者様とじっくり向き合い、長期的な視点で支援を続けていく姿勢が求められると感じております。まだまだ学ぶことばかりですが、これまでの経験も活かしながら、チームの一員として少しでも貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

安曇野日和46号をお届けします。夏本番となり連日暑いが続いていますね。先日登山に行きましたが、山の上は涼しく快適で、「一生ここに住みたい!」と思わせてくれました。実際にそこに住むとなると色々困るので下山していますが、今でも強く後ろ髪をひかれる思いです。ここ安曇野で7月の35° 超えの日を数えると、2000年が1日、2021年～2023年で3～5日、2024年は7日でした。今年は果たして、と思います。体感では10日くらいでしょうか？